

# 溶剤リサイクル1.4%増

## 工業会調査 04年 塩素系が高い伸び

日本溶剤リサイクル工業会（東京都千代田区、会長・川瀬泰淳日本リファイン会長）は二十六日、二〇〇四年の精製溶剤リサイクル数量の調査結果をまとめた。リサイクル原料は二十八万五千トと前年比横ばいだったが、

精製リサイクル量は精製業者の回収率向上によって二十万九千トと同一・四%増加した。精製リサイクル量のうち、塩素系溶剤は二万四千トと前年比六・一%増加した一方、非塩素系溶剤は十八万四千トと〇・八%増に

とどまった。同工業会は、溶剤リサイクル事業を行っている五十三社を対象にアンケート調査を行い、このうち回答のあった四十一社の取り扱い数量を集計、過去二年間のデータから伸び率を推計して不明部

分を補った。精製リサイクル事業者は前年より一社増加した。

PTR法や大気汚染防止法の改正によって、製造事業者の揮発性有機化合物（VOC）の処理回収は強化される傾向にある。非塩素系溶剤のリサイクルが小幅にとどまったのは、設備投資の安価な燃焼法による処理が進んだものと推測される。一方、塩素系溶剤のリサイクル率が高いの

は、ほとんどが不燃性で焼却処理に不向きなため。

リサイクル製品の利用形態は、同じプロセスで利用する循環型リサイクルが六六%を占め、他のプロセスで利用する非循環型の二二%を大きく上回っている。VOC規制が強化されるなか、同工業会は今後一二年で溶剤リサイクル市場が急拡大する可能性が高いと予測する。

化学工業日報

H17年5月27日(金)

掲載